

昭和36年度調査研究概況

I 総合研究

- 1、平城宮跡発掘調査（建造物・歴史研究室）
- 2、西大寺調査（美術工芸・建造物研究室）
- 3、唐招提寺総合調査（美術工芸・建造物・歴史研究室）

以上の概要については本文参照。

- 4、大和条里制の調査研究（歴史・建造物研究室）
前年度に引続き平城京の条坊制と大和国条里制の資料の蒐集整理を行った。整理はパンチカードを利用し、文献資料の蒐集にとめた。現在まで整理できたのは大日本古文中の東大寺文書、西大寺田園目録、延久2年の興福寺雑役免坪付帳（平安遺文第9巻所収）の一部である。
- 5、仁和寺の研究（美術工芸・建造物・歴史研究室）
前年度に引続き、文部省科学研究費交付金（総合研究）を得て、京都国立博物館に協力して仁和寺の調査を行った（研究題目「仁和寺における美術史料の調査とその研究」研究代表者 京都国立博物館学芸課長梅津次郎）。当研究所より参加したのは森蘊杉山信三、守田公夫、田能村忠雄、田中稔の五名でそれぞれ旧仁和寺子院法金剛院庭園の実測調査、仁和寺円堂院跡発掘、工芸品、絵画、古文書寺誌資料の調査研究を行った。これによって円堂院の位置の

確認、鎌倉時代前期と見られる金銅転法輪筒や史料の価値の高い古文書などを多数発見することが出来た。

II 各個研究

1、美術工芸研究室・彫刻

前掲のごとく一、興正菩薩観尊の研究、二、宝山湛海研究、三、茨城県下諸寺の調査研究が本年度の主なものであるが、それらのほかに8月に行われた西大寺絵画調査（美術工芸研究室合同調査）や唐招提寺講堂諸仏調査（唐招提寺総合調査）を行った。

また、従来試みられることの少かつた仏像の精密実測調査を蟹満寺釈迦如来像（9月）や興福寺旧山田寺仏頭（12月）において行い、さらに文化財保護委員会法隆寺中門重要文化財金剛力士像修理委員会の依頼によつて同像の精密実測調査（2月―3月）を行った。特に興福寺仏頭や法隆寺金剛力士像では建造物研究室・遺跡庭園室の協力を得てそれぞれ原寸大、2分の1の精密な実測図を作製するに至つた。なお、今後これらの成果を十分に利かしてさらに数多くの像例に当り、造像の歴史の実証的研究や文化財保存修理のための資料としたい。

2、美術工芸研究室・工芸

昨年度、材質の物理学的、化学的調査を加えて、

研究の最終的段階に到達した唐招提寺の「レース」については、本年度は論を纏めるべく検討を深め、その成果を十周年記念学報に収録し得た。

同じく「レース」を納めた「金亀舍利塔」についても、一応、その目的は達せられたので、一つの試論としてではあるが成果を報告した。とくに舍利塔の場合は、工芸室の多年にわたる研究課題「舍利塔の様式的研究」について集積せられた研究成果の一部であり、併せて御参照いただければ幸甚である。

その他、美術工芸研究室は従来通りの研究を行っているが、工芸室が行つた調査については前述の如くである。また、前年よりの引続き研究課題に対しては年々その資料を重ねてきている。

3、美術工芸研究室・絵画

9月以来、絵画室としては、「近世に於ける南都絵画の研究」を研究課題に撰び、以後資料蒐集にとめている。

とくに、南都の絵仏師に関して、西大寺絵画調査の成果をうけて、観尊に関係深つた絵仏師堯尊の活動を中心に遺品のいくつかをとりあげて再度考察を試みた。

又、その一環として、唐招提寺蔵「弁才天」（板絵）・聖林寺蔵絵画調査・仁和寺絵画史料蒐集を行っている、研究を推進している。

4、建造物研究室・遺跡庭園

前掲の如く、西大寺称徳天皇御山莊跡、旧一乗院庭園遺跡、京都御苑内に残る寝殿造系庭園遺跡の調

査が本年度の主なものであるが、それらの他に、昭和34年東大寺旧境内地の地形実測調査に引続き、今回は東大寺の依頼もあり4月に東大寺天地院跡の地形実測調査を行った。目下のところ僧房跡などが地形的に推定されるが、その確認は今後の電気探査、部分的発掘に期待される。4月下旬から5月にかけて臨川寺庭園の調査を行った。臨川寺は後醍醐天皇第二皇子世良親王の別荘川端殿のあとを寺としたもので臨川家訓には夢窓国師築造の庭園があつたと記されているが、実測の結果、池、中島、築山等が確認できた。

6月下旬、元興寺極楽坊境内の防災施設に伴い一部発掘調査が行われたが、それに先立つて電気探査を行い、池跡、土層の層序等を探り、その結果を写真し、発掘調査の参考とした。

5、建造物研究室・建築、歴史研究室・考古

両室は平城宮跡発掘に主力を注いだ。その他解体修理に伴う調査として奈良県教育委員会に協力して、6月興福寺大湯屋の地下調査を行い、天治元年現在地に移されて以来4度にわたつて再建されたことを確認した。移建当初の大湯屋が掘立柱であったことは興味深い。7月防災施設事前調査として元興寺極楽坊の発掘を行い、小子房の一部を明らかにした。また11月中旬日本新聞社の依頼により、石田茂作、浅野清とともに尾張国分寺の発掘調査を行った。発掘は塔、金堂を対象にし、それぞれその基壇を発見した。

6、歴史研究室・古文書

南都諸大寺関係古文書・経典類の調査研究の一環として、前年度に引続いて興福寺・西大寺所蔵の古文書・経典類の一部を調査研究した。9月には高野山安養院所蔵の聖教類の一部を調査し写真撮影したが、その紙背文書中から史料価値の高い文書が多数発見された。なお6月には毎日新聞社による高野山文化財総合調査に参加し、宝寿院・持明院・物持院・大明王院などの古文書・聖教類を調査した。また文化財保護委員会による調査にも協力し、12月には教王護国寺・宝菩提院の大般若経、1～2月には醍醐寺宋版一切経を調査した。